

◆ 今週のコメント

・ 「小児用肺炎球菌ワクチン」及び「ヒブワクチン」接種の再開について

「小児用肺炎球菌ワクチン」及び「ヒブワクチン」については、本市を含めた死亡例の発生を受け、厚生労働省通知により、接種を一時見合わせていました。この度、専門家の会議において安全性上の懸念はないとの評価を受けたことにより、厚生労働省から、両ワクチンの接種を平成23年4月1日から再開する旨の通知がありましたのでお知らせします。

○「小児用肺炎球菌ワクチン」及び「ヒブワクチン」接種の再開について

(京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課ホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000099002.html>

・ 麻しん、梅毒等の届出基準等の一部改正について

感染症予防法に基づく届出基準等の一部改正が、平成23年4月1日より実施されます。麻しんの届出項目(検体採取日の詳細等)の追加、梅毒等の検査方法の追加等の改正がありましたので、新しい届出基準等につきまして、下記ホームページでご確認ください。

○厚生労働省通知 <http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T20110308H0050.pdf>

新旧対照表 <http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T20110308H0061.pdf>

○感染症発生動向調査事業に関する届出様式(京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課ホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>

・ インフルエンザの定点当たり報告数は、5.19(348例)です。第4週のピーク以降、減少を続けていましたが、先週増加しました。しかし、今週は再び減少に転じています。

◆ 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.35(14例)で、過去5年平均値を大きく上回る状態で推移しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

ありません

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	5.19	348
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.53	301
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.80	32
	② 水痘	0.80	32
	④ 突発性発しん	0.40	16
	⑤ 伝染性紅斑	0.35	14
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

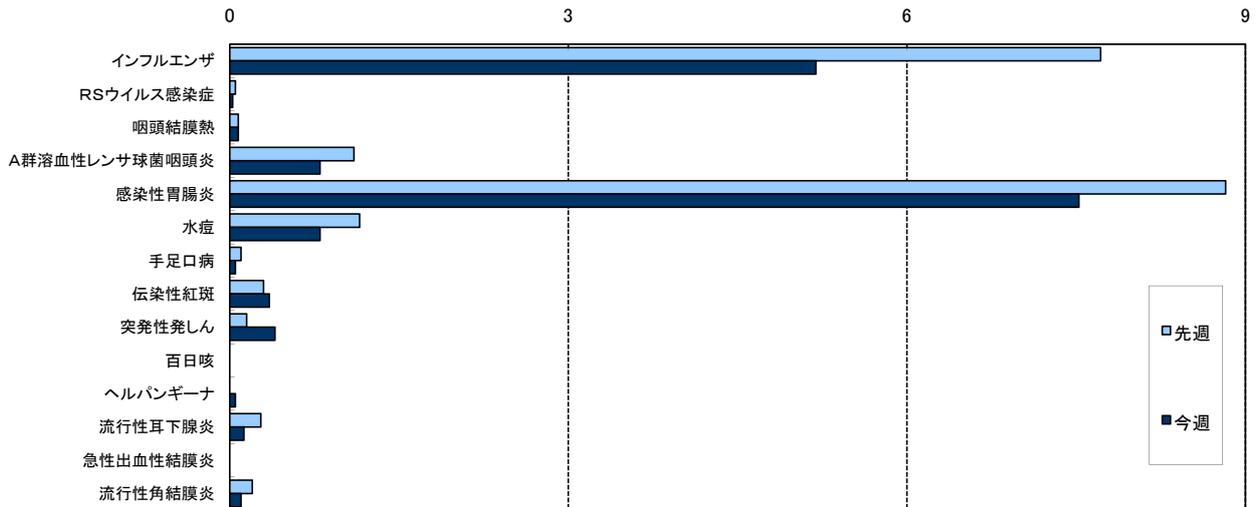
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

(注) 京都市のデータは、平成23年3月31日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

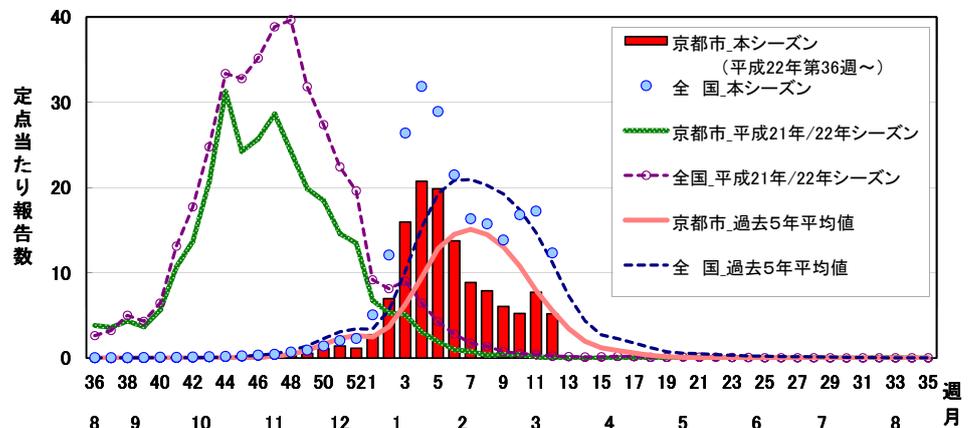
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第12週)と先週(第11週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

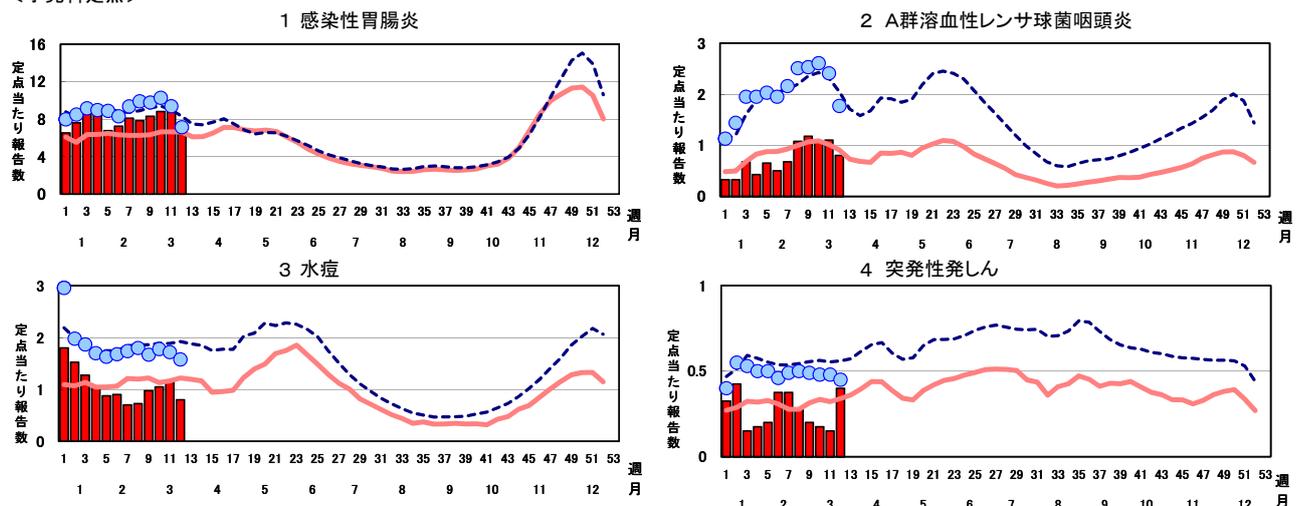
週	報告数(例)
第8週	528
第9週	406
第10週	350
第11週	517
第12週	348
累積報告数 (第36週以降)	8,480



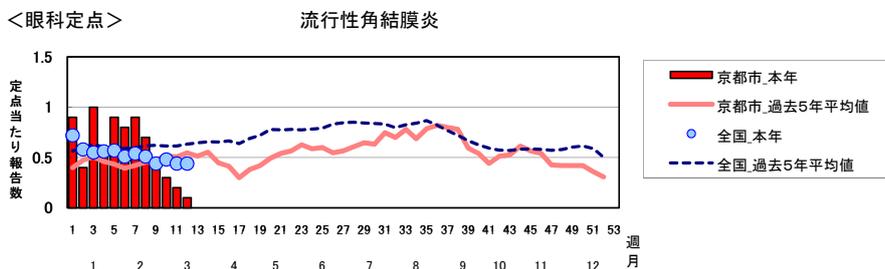
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



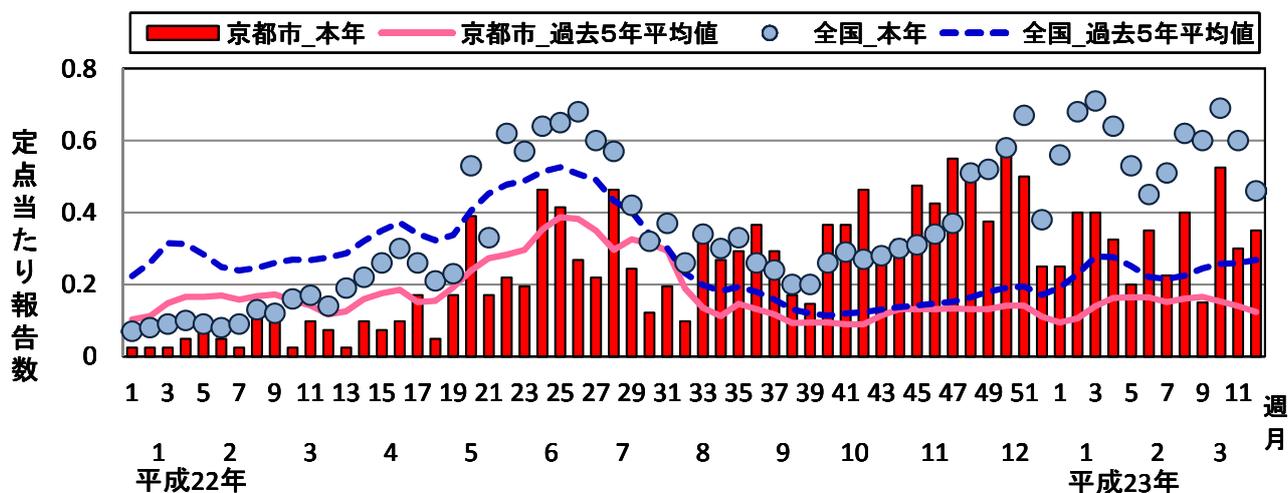
第12週(3月21日～3月27日)トピックス: <伝染性紅斑>

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.35(14例)で、平成22年第33週(8月16日～22日)以降、過去5年平均値を大きく上回る状態で推移しています。

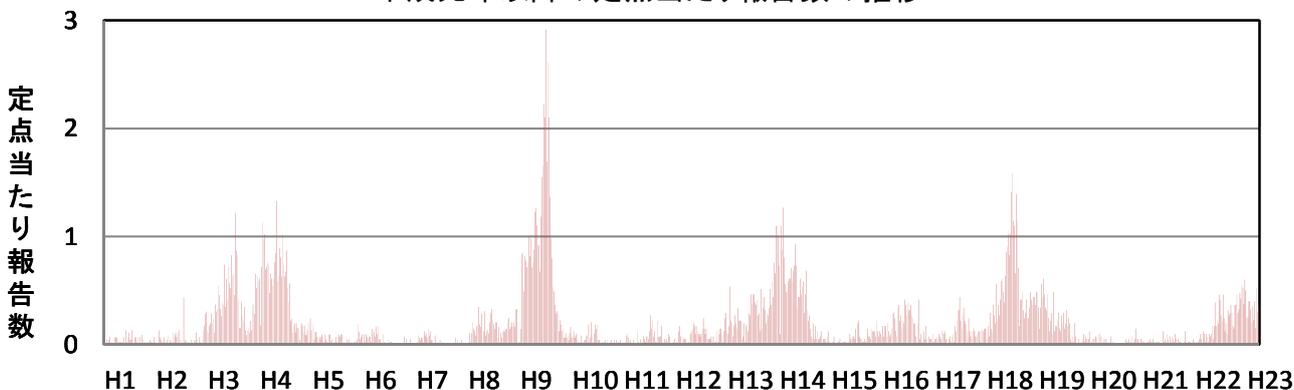
平成元年以降の定点当たり報告数の推移をみると、4～5年の流行周期で報告数が多くなっており、昨年から続く流行が、今後、大きくなる可能性がありますので、動向にご注意ください。

年齢階級別割合では、4歳が21.4%(3例)、2歳、5歳、6歳、20歳以上が各14.3%(2例)となっています。20歳以上での報告がありますが、本疾患は、妊婦から胎児への感染による、胎児異常(胎児水腫)及び流産の危険性が指摘されています。特に妊娠初期の感染が危険とされていますので、妊娠中及び妊娠の可能性のある患者には注意が必要です。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移(平成22年及び本年)



平成元年以降の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合

